学内広報

No.1308

2005.2.23
東京大学広報委員会

平成16年度「東京大学特別栄誉教授」称号授与式挙行される（２ページに関連記事）
安藤忠雄特別栄誉教授（左上）、小柴昌俊特別栄誉教授（右上）、藤嶋昭特別栄誉教授（左下）、戸塚洋二特別栄誉教授（右下）

CONTENTS

一般ニュース …… 2
平成16年度東京大学特別栄誉教授称号授与式開催される、第２次学力試験（前期日程・後期日程）の出願受付終わる、第２次学力試験（前期日程）及び外国学校卒業学生特別選考の受験者数決まる

部局ニュース …… 4
退職教員の最終講義、薬学系研究科が寄付講座設立記念講演会を開催、生産技術研究所学術講演会・産業連携フォーラム合同講演会開催される

キャンパスニュース …… 6
２回にわたる新春懇親会開催

淡青評論　エネルギー学への道程 …… 8

平成16年度「東京大学特別栄誉教授」称号授与式挙行される

授与式会場（本部棟12階大会議室）

本年１月１日付けで「東京大学特別栄誉教授」の終身称号の授与が決定された４名の本学元教授に対する称号授与式が、このたび挙行されました。この称号は、本学の現役教授で著しい功績等をあげた方、もしくは本学の退職者で在職中の著しい功績等によって引き続き本学に対する貢献が見込まれる方に授与されるもので、今回の授与が初めてです。

式は、安藤忠雄元大学院工学系研究科教授（建築学）、小柴昌俊元理学部教授（物理学）、藤嶋昭元大学院工学系研究科教授（化学）をお迎えして、２月８日（火）17時から本部棟12階大会議室において、そして、戸塚洋二元宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設教授（物理学）をお迎えして、２月14日（月）11時から総長室において、それぞれ、理事・副学長・関係部局長等が陪席し、総長主催で行われました。その際、総長から東京大学特別栄誉教授記と特別栄誉教授のガウンが贈呈されました。ガウンは、英国オックスフォードの業者に特別に注文して作製されたものです。

授与式会場（総長室）

第２次学力試験（前期日程・後期日程）の出願受付終わる

平成17年度第２次学力試験の願書受付が１月24日（月）から始まり、２月２日（水）に締め切られた。

志願者数は次のとおりである。

前期日程入学志願者数等

科　　類	募集人員	志願者数	倍　率	前年度の倍率
文科一類	373	1,458	3.91	3.31
文科二類	327	1,094	3.35	3.35
文科三類	432	1,451	3.36	3.95
理科一類	1,025	2,884	2.81	2.65
理科二類	492	1,843	3.75	3.95
理科三類	80	426	5.33	6.00
合　　計	2,729	9,156	3.36	3.36

後期日程入学志願者数等

科　　類	募集人員	志願者数	倍　率	前年度の倍率
文科一類	42	785	18.69	25.69
文科二類	38	660	17.37	14.11
文科三類	53	923	17.42	20.89
理科一類	122	1,998	16.38	16.13
理科二類	59	603	10.22	10.34
理科三類	10	149	14.90	15.50
合　　計	324	5,118	15.80	16.84

第２次学力試験の願書受付の様子

第２次学力試験（前期日程）及び外国学校卒業学生特別選考の受験者数決まる

本学の平成17年度第２次学力試験（前期日程）の第１段階選抜が行われ、２月10日（木）午後、本郷構内において合格者が発表された。また、外国学校卒業学生特別選考第１次選考も行われ、１月下旬に各人あて通知された。

これにより、２月25日（金）・26日（土）及び27日（日）に、本郷・駒場の両地区試験場において行われる前期日程の第２次学力試験及び外国学校卒業学生特別選考第２次学力試験の受験者数が確定した。

なお、各科類の合格者数は下表のとおりである。

前期日程第１段階選抜結果

科　類	募集人員	志願者数	倍　率	第１段階選抜		合格者科類別成績		
				合格者	予告倍率	最高点	最低点	平均点
文科一類	373	1,458	3.91	1,119	3.0	786	570	674.08
文科二類	327	1,094	3.35	984	3.0	760	602	670.47
文科三類	432	1,451	3.36	1,299	3.0	777	611	669.56
理科一類	1,025	2,884	2.81	2,573	2.5	777	628	694.35
理科二類	492	1,843	3.75	1,722	3.5	781	571	673.04
理科三類	80	426	5.33	321	4.0	786	663	723.51
合　計	2,729	9,156	3.36	8,018				

外国学校卒業学生特別選考第１次選考結果

科　類	第１種（外国人）		第２種（日本人）	
	志願者数	第１次選考合格者	志願者数	第１次選考合格者
文科一類	14	3	25	11
文科二類	40	10	17	7
文科三類	9	2	30	17
理科一類	42	11	20	14
理科二類	7	3	15	10
理科三類	1	0	10	1
合　計	113	29	117	60

前期日程第１段階選抜合格者発表会場（本郷キャンパス）

退職教員の最終講義

このたび、本学を退職される方々の最終講義・講演の日程と題目をお知らせいたします。

大学院工学系研究科・工学部

定方　正毅　教授　３月４日（金）15：00～
（化学システム工学専攻）　工学部５号館１階51､52､53号講義室
「中国環境問題とエコトピア社会実現に向けての工学的アプローチ」

（学内広報No.1307に誤りがありましたので、訂正し、再掲載します。）

大学院農学生命科学研究科・農学部

鈴木　和夫　教授　３月11日（金）15：30～17：00
（森林科学専攻　森林植物学研究室）
農学部２号館１階　化２講義室
「森林植物の世界」

東洋文化研究所

猪口　　孝　教授　３月16日（水）15：00～16：00
（汎アジア研究部）　山上会館　大会議室
「アジア・バロメーターの意義と成果」

大学院薬学系研究科・薬学部

薬学系研究科が寄付講座設立記念講演会を開催

薬学系研究科（海老塚豊研究科長）は、２月14日（月）、医薬品情報学寄付講座（主宰：澤田康文客員教授）の設立記念講演会を同研究科総合研究棟講堂で開催、同日夜には祝賀会を山上会館談話ホールで開宴した。両会とも産官学などからの多くの方々の出席を得て、寄付講座のスタートを祝った。

医薬品情報学寄付講座は、市場に出された後の医薬品の適正使用促進、新たな医薬品の使用法、医薬品の有害事象の発見やメカニズムと対処法などの探索や研究（育薬）を目的として、「医薬品情報学」の学問領域の確立のために昨年10月１日（金）に設立された寄付講座である。

この講座は、社会的ニーズの高い薬害の防止や薬物治療の質的向上に大きく貢献することが期待されており、産官学連携が必須条件となっている。

講演会は、学際分野としての医薬品情報学をテーマに関水和久総長補佐の司会により進められ、内容は次のとおりであった（敬称略）。

◆設立にあたって
薬学系研究科の目指すもの
海老塚　豊
（薬学系研究科長・薬学部長）

挨拶する海老塚研究科長

◆基調講演１
ユビキタス社会と薬社会
坂村　　健
（情報学環・学際情報学府教授）

◆基調講演２
和歌と投薬ミス
竹田　正幸
（九州大学大学院システム情報科学研究院教授）

◆招待講演
情報化社会で考えること
～意識の世界と無意識の世界～
養老　孟司
（東京大学名誉教授）

◆特別講演
医薬品情報と処方設計管理
澤田　康文
（薬学系研究科医薬品情報学講座客員教授）

寄付講座主宰
澤田客員教授の講演

講演会は、産官学から150名を超える方々が参加されて立見が出るほどで、会場は熱気に包まれた。これは、この講座に寄せられる社会的な期待感の高まりと、著名な先生方にご講演いただいたことの結果と考えられる。

講演会終了後、会場を山上会館談話ホールに移し、祝賀会を開催した。終始和やかな雰囲気に包まれて、20時過ぎに散会した。

生産技術研究所

生産技術研究所学術講演会・産学連携フォーラム合同講演会開催される

講演会の様子

生産技術研究所では、１月27日（木）、駒場Ｉキャンパス大学院数理科学研究科大講義室において、学術講演会・産学連携フォーラム合同講演会を「教育と産学連携を通じた大学の社会貢献」と題し開催した。

大学の社会的役割には、教育による人材の輩出と研究成果の社会への還元という二つの側面があるが、最近の科学技術は高度化し、学生が習得すべき知識、技術の量は増加の一途を辿っている。このような状況において、大学・大学院における学生の教育には、従来に比べて効率の良さや質の高さが求められている。午前の部では、最先端の学術研究の現場における教育問題をどのように克服していけば良いのかについて、実例を含めた講演があった。

午後の部では、産学連携に関する文部科学省及び経済産業省関係者による講演、生産技術研究所と産業界との連携における最近の活動「持続型社会連携協議会」及び「技術相談会」についての講演、法人化後の大学と企業との連携等についての講演があった。

また、午前の部と午後の部の間には、学生による学術成果パネル発表及び東京大学学生発明コンテスト入賞者パネル発表が行われた。

今回の合同講演会では、産業界などからの200名を超える参加者から積極的な質問があり、活発な意見交換が行われた。

東京大学中国留学人員友好聯誼会
2回にわたる新春懇親会開催

中国の伝統的春節がやって来た。1月27日（木）の夜、これまで22年の歴史を持つ東京大学中国留学人員友好聯誼会（会長：駱煥東）は、山上会館にて新春懇親会を開催した。同会は中国が国を挙げて祝う旧暦春節に際し、平素より東大中国人留学生にご支援、ご協力、ご理解を頂いている方々へ感謝の意を表すると同時に、交流を図ることが目的である。会食は勿論のことだが、そのほかに、劉占富・高穎両司会の進行のもとで、各方面のご来賓による多数のご挨拶や中国の素晴らしい古典音楽や美しい民族舞踊も披露された。

出席された元文部大臣及び元総長の有馬朗人先生は、自分の弟子達の中で研究が一番出来たのが中国人留学生だったと誇らしげに語られ、中国人留学生の勉学や努力姿勢を高く評価され、政治・経済が違っても科学技術の分野ではアジアが一体となって協力しあうべきであり、米国と欧州に続きいち早く「一極」になるべきだと語った。

厚生大臣と大蔵大臣を歴任し今は日中友好会館の会長を務める林義郎先生は、東大に来るのも懐かしいとまず述べ、日中友好の歩みを振り返って交流強化の重要性を強調し、ご自身のご令嬢も中国語を学び始めたことを紹介され、中国人留学生の「面倒」を見る立場で様々な日中友好事業に尽力して行きたいと語った。佐々木毅総長は、ご自分の最終講義や別の会合などが重なるなどの過密スケジュールにもかかわらず、講義直後にかけつけてご挨拶してくださり、暖かいご鞭撻の言葉によって留学生諸君を励ましてくださった。渡辺浩副学長は流暢な中国語で東大の最新事情や法人化後の動きなどを説明し、世界各地での学術フォーラム開催の状況や、北京での事務所設置、中国における東大の同窓会など、中国と交流を深めていくための新しい取り組みを詳しく紹介された。

一方、中国の天津で生まれた公明党の神崎武法代表（東大法学部出身）は、東大中国学友会の名誉顧問でもあり、日中国交正常化に多大な役割を果たしてきたこの公明党からは、山口那津男政調会長代理（参院議員）、大口善徳農林水産省政務官（衆院議員）、鰐淵洋子参院議員、中條秘書官が当日の新春懇親会にご出席された。山口議員はご挨拶の中で中国人留学生を引き続き支援していく熱意を示し、「有馬先生がおっしゃった通り、科学技術面はいち早く一極になるべきだが、これだけでなく、政治・経済の面でもアジアは一極になるべき」であり、実際、経済貿易の面では既に一極になりつつあると指摘された。また、山口、大口、鰐淵議員らは、昨年12月の国会見学懇談会で高額な医療費への配慮や日本人との交流促進などに関して要望が寄せられたことに触れて、「われわれにできることは何でも支援を惜しまない」と強調し、日中新時代の担い手となる中国人留学生の前途に大きな期待を寄せ、中国の人材育成や青少年教育及び農林業や環境保全・西部大開発・東北大振興などへの関心も示した。

席上、主催者挨拶で駱煥東会長は、「全ての東大中国人留学生を代表し、出席者にお礼申し上げ、東京大学を始め、公明党や奨学金財団など各関係機関や協力者のご支援・日ごろのご高配に心から感謝させていただきたい。そして勉学の進捗や研究の更なる進展を目指して多大な成果あげるように努力したい」との決意を表明した。

また、駐日中国大使館公使・教育参事官である李東翔先生は、中国の教育事情や留学政策、そして日本の外国人留学生全体の66％を超えた７万７千以上の中国人留学生の現状などを簡単に説明し、佐々木総長が提案した日中学長会議が昨年北京大学で成功裡に開催されたことも紹介された。そして、「アジアではもちろん、世界でも有名な東京大学で学べるのは中国人留学生にとって何よりも嬉しいことであるはずなので、その機会を生かしていっそう頑張ってもらいたい」と励ました。

続いて、中国学友会の新聞である赤門華風の編集長であり、昨年自身の著書で大きな反響を呼び、優秀論文賞も受賞した優秀学友代表の祁景えいさんとインドネシア国籍の華僑である江啓慧さんもそれぞれの体験を踏まえて挨拶し、学業成功の喜びや地震による津波被害の悲しさと学友会を含めた国際援助の暖かさなどを語った。

また、つい先日行われた第11回在日留学生音楽コンクールで優勝したばかりの陳莉娜女史による新疆ウイグル族の美しい民族舞踊やオリジナル賞を受賞した秦琴さんの素晴らしい歌、そして孫盈さんによるプロ級の古箏演奏などが、春の風のように会場の雰囲気を和ませ、参加者の心を癒し、感動させた。

陳莉娜女史の民族舞踊

更に、会場では、中国駐日大使館教育処の一等書記官である張嘉蘭女史や梁波先生及び東京大学の各理事・副理事、留学生センター長、各学部で留学生に関わる先生方、華人の先生方、日本学生支援機構、日本国際教育支援協会、文部科学省、科学技術振興機構、新華社など報道関係者の方々が、現役東大留学生の代表達とともに楽しい一時を過ごし、春節を祝いながら交流を深めたようだ。

旧正月大晦日直前の２月７日（月）には、同学友会が第二食堂にて主に東大に在籍している約800人の中国人を対象とした２度目の新春懇親会を開催した。数百名の中国人東大生が一同に集まり、様々なプログラムの中で春節を祝賀した。会場では、展飛副会長、司会担当の李練兵さんや高頴さんが、前日の招待会の盛況を説明し、王毅大使が留学生のためのメッセージを読み上げ、駱会長が昨年来の学友会活動を簡単に振り返りながら学友たちに新春祝賀の挨拶をした。全日本中国学友会会長の張玉蒼博士、東大教員の唐偉先生や陳献先生、陽坤先生、寥洪恩先生、祁建民学振研究員なども参加され、後輩達へ激励のご挨拶や乾杯をされた。学友により京劇や歌や日本の歌や、「即興相声」なども披露された。その間、年末スポーツ試合の授賞式や「一幇一」助学活動と津波募金活動有功者の奨励状授与も行われた。最後に、出席者が緊張して見守る中で賑やかにプレゼント抽選が行われた。その際、赤門華風の最新号や「家庭医生」雑誌も配布し、日本僑報社から寄贈された大量の本も抽選の景品として配られた。

こうして、今年度の２度にわたる、新春懇親会は成功裡に終えることができた。

（東京大学中国留学人員友好聯誼会副会長：和愛軍農学博士　文責・写真撮影）

原稿募集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

・文字数800字以内（写真がある場合は文字数を控えめにしてください。）
・写真には、キャプション（説明文）を添えてくださるようお願いします。

送付先　東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393　内線：82032、22031
FAX：03-3816-3913
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

原稿の締切は各月第１・３水曜日、配付は翌々週の火曜日です。ただし、該当日が祝日の場合を除きます。

平成16年度の学内広報の発行スケジュール
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou-j.html

「噴水」「窓」のコーナーにご意見を

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただく欄として「噴水」、東京大学と社会との連携・協力情報を紹介するための欄として「窓」が設けられています。これらの欄への投書要領は次のとおりです。

「噴水」

1　本学における教育・研究活動等に関する意見を述べたものであること。
2　個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
3　他者への非難・攻撃を含まないものであること。

「窓」

「東京大学とその周辺地域の歴史」、「学外機関より本学構成員への表彰」、「学外の方からの東京大学に関する意見」など、東京大学と社会との関係に関する情報であること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

エネルギー学への道程

個人で世界のすべてを知ることはできないし、知る必要もないだろう。各分野の「学」が、それぞれの領域の「知」を体系的に整理し、研究によって内容を充実させていく。科学の目覚しい発展をみると、いつか「学」の領域が世界をもれなくカバーして、世界の全てを理解した「スーパー知」ができるような気がしてくる。

しかし、科学の進歩につれて、現実にはそれぞれの「学」の担当領域は狭くなる一方だ。最近ではむしろ、我々が直面する問題を解決するには一つの学問分野の知識では不十分で、「知の構造化」によって各分野の知識を体系的に整理する必要性が指摘されている。エネルギー問題を研究してきた私もエネルギー分野での「知の構造化」の必要性を感じている。

知の構造化としての「エネルギー学」の構築のためには文系の学問との協力が不可欠だと考えている。というのは、現実に我々が直面するエネルギー問題は、原子力の安全・安心にしても、電力自由化や地球温暖化問題への対応にしても、人間社会の問題であるため、単純に白黒が決まるようなものではないからだ。

理系の学問には普遍的真理の存在が前提とされており、仮説として提案した論理を実証することが「学」の成立基盤になっている。私はこれを論理実証型の学問と分類している。一方、人間社会の問題を扱う文系の学問では人間自身が抱える矛盾に直面せざるを得ない。ここでは普遍的に正しい真理だけでは不十分で、問題設定の枠組みが重要であり、その中での論理の整合性によって学問が成立している。この点に注目して、私は文系の学問を論理整合型と分類している。

この意味では、「エネルギー学」は論理整合型の学問に分類されることになろう。いくつかのケーススタディを通して、知の構造化としての「エネルギー学」のおぼろげな姿は見えてきたように思うのだが、まだまだ道は遠い。「学融合」を目指して設置された「新領域創成科学研究科」に集う人たちによって、「エネルギー学」が創出されることを期待している。

山地憲治（大学院新領域創成科学研究科）

（淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1308　2005年２月23日
東京大学広報委員会
〒113-8654　東京都文京区本郷７丁目３番１号
東京大学総務部広報課　☎ 03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html
東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO